

NPO 法人 科学技術者フォーラム 平成 30 年4度見学会報告  
「独立行政法人 造幣局 埼玉支局 見学会報告」

1. 見学日時:2018 年 4 月 12 日(木) 14 時 00 分～15 時 30 分
2. 見学先:独立行政法人 造幣局 埼玉支局
3. 見学者:31 名
4. 見学の概要

埼玉支局では 500 円玉の製造及び、プルーフ硬貨、勲章等の製造を行っている。尚、500 円玉は偽造防止のために、横面に斜めのギザギザが付けられており、この製造は高度な技術であることが説明された。

埼玉支局では円形(えんぎょう:鋳型を押し付ける前の硬貨ベース)は製造していない事から、広島支局で製造したものを、ここに運び、それを更に研磨し、硬貨等を製造している。プルーフ硬貨は一般に流通している硬貨をより精密に研磨して製造している。

プルーフ硬貨は一般に使用されている硬貨をより研磨レベルを上げた手を掛けたもので、収集家の保存用に製造されている。1 円～500 円までの各硬貨や、記念硬貨がある。

記念硬貨には、オリンピック等の開催に合わせて製造されたもの(金貨、銀貨等)と、各県が発行したもの(1000 円、500 円硬貨)があった。各県が発行したものは全てが彩色した硬貨で、その製造も見学で来て、非常に興味深かった。

各硬貨は 4～5 倍の大きさの原板の鋳型を製造し、これを縮彫機により縮小して、硬貨を製造する大きさの鋳型を製造し、これ野複製を使用して、硬貨を製造するとのことだった。

縮彫機は明治以来使用されている、同じ原理のもので、IT化されていない事に懐かしさを感じた。

午前中に訪問した国立印刷局もそうだが、明治の初めには、多くのお抱え外国人が来日し、日本人が彼らの技術を吸収して、その技術が民間にも広がり、今日の日本の技術の礎を築いたではないかと感じた。

(報告者:碓)